

令和7年度2月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

【会議名称】 令和7年度2月期古賀市社会教育委員の会議

【日時】 令和8年2月27日（金） 18時30分～20時00分

【場所】 リーパスプラザこが交流館 103洋室

【内容】 「生涯学習笑顔のつどい」振り返り

【出席委員】 園議長、橋爪委員、安部委員、石川委員、梅谷委員、
坂崎委員、大賀委員、（以上委員9名）

【欠席委員】 江口委員、倉掛委員、藤田委員

【事務局】 生涯学習推進課長、職員2名

【傍聴者数】 0名

【資料】

- ・レジュメ
- ・第 10 回笑顔のつどいアンケート結果

1. 開会

2. 協議事項

生涯学習笑顔のつどいの振り返り

(園議長)

資料のアンケート結果を読む時間を 2 分取り、笑顔のつどいの感想や意見を一人ずつ発表していただく。

(橋爪委員)

今年は「参考になった」などの回答が多く、全体的に満足度が高いと思った。発表団体が 3 つある中で共通点もあるし、違いがあることが明確だった。グループ協議の時間をたくさんとったことでアウトプットでき、参加者の満足度が上がったと思う。参加者からも「勇気が出た」、「行動を起こしてみようと思った」という意見が多かったので、成果が大きかったと思う。

(安部委員)

笑顔のつどいを過去 10 回やってきたが、これが古賀市での取り組みがどのようにつながるかが不透明なため課題に感じる。第三者の立場から見るとこの先どうするのか。考えていくことも必要だと思う。会としては盛り上がってよかった。

(石川委員)

前回は今回も成功だったと思う。古賀市はそれぞれのところで、活動を頑張っているが、それがつながっていないといつも感じる。それをどのようにつなげるのか。会自体はとてもよかったが、そこで終わってはいけないのでこのよさがどのようにつながっていくかだと思った。

(梅谷委員)

参加型で意見を出し合えたことがよかった。反面、これを今後どうつなげていくかが課題という意見だった。

「地域で小さなサポートからはじめたい」という参加者からの感想がある。触発された方たちが各地域で小さな種をまくことのフィードバックはできないが、今回の登壇者に次回の参加を促す手紙を出すことはフィードバックにつながっていくのではないかと感じる。筵内のようなことが自分の地域でできるかというとなかなか難しい。しかし、つながっていくことが大切だということが芽吹いていると感じた。筵内区から話を聞く中でコロナ渦で地域での会食ができなくなったことが大きかったと聞いた。でも希望は繋がっていかないといけない。福祉会は地域の「食」を通じてつながりが定着していった。それがコロナ渦で1回リセットされてしまった。しかし、思いの強い人で新たな考え方で食堂が始まった。一度壊れたものも再構成し、新たなものが生まれることも進化の中では重要と思った。

(大賀委員)

はじめての参加で盛り上がりはとても感じた。グループでは地域の町内の応援団が偏っており、あまり他の所の意見が出にくかったと感じた。社会教育委員の過去の活動報告書の中で「子どもの放課後の過ごし方」というテーマがあった。過去の活動が今はどうなっているか、過去も知りたいと思った。

(坂崎委員)

発表者の活動を知らなかった人が多かったため、情報が行き届いていないことの心配を感じた。聞いた話をささいなことでもいいのでアウトプットしていくことが大切。その人たちをサポートする窓口があって、つなげる機会ができたらいい。ささいな一歩をできない人が多いので、応援できる場所があるといい。

チルドレンファーストの事業で3月の後半に子どもたちに図書券が配られる。子どもたちに本を選んであげたり、本の相談ができたりするサービスができないかと考えていて、みんなふると相談している。他の人がやるのを手伝えることはないかと思う。

(園議長)

アンケートの中で年齢層を見ると10代、20代の参加者がゼロ。過去、少年の船の発表があったが、子どもたちの参加がなかったため、子ども主体の意見を聞く機会が今後は必要であり、参加者の年齢層を下げたい。また、みんなふるやのその後も発表していただけたらと思う。周知されていないことを今回周知したので、その後どうなったのかもやってみることが、社会教育のつながりを作るのではないかと思う。社会教育委員の役割は何かという意見もあったが、ホームページでつどいの報告をし、役割を示すことも重要だと思う。

(事務局)

団体一つ一つの感想になるが、みんなふるやは皆さん興味津々で本を持っていくと言ってあつ

た。自分にもできそうと思えるようなゆるやかなつながり方がよかった。筵内区はたくさんの方が参加されていた。また、若い世代のお母さんたちが地域でつながっていることや継続が素晴らしいと思った。くぼしよくどうはやってみようという気持ちで立ち上げ、協力する仲間も素晴らしいと思った。

(事務局)

アンケートでは、笑顔のつどいに今回初めて参加された方がとても多かった。自分の団体を応援する方が多く参加し、他の団体の良さも初めて知れてよかったという意見も多く、この会をきっかけに活動が広がるといいと思う。また、発表者と参加者に一体感が生まれ、あたたかな会になってよかったという印象だった。

(事務局)

社会教育委員の皆さんの個性があつた場を生み、それが参加者にも伝わったと思った。今までの事業の経験から、行政ができることには限界がある。そこは行政と民間と知恵を出し合い、うまく組み合わせていけたらと思った。

(梅谷委員)

筵内区の方が参加者からあんなにほめられるとは思わなかったと言ってあった。それが次の活動の後押しや次の活動を頑張るエネルギーになると思う。

(園議長)

筵内区は子どもの頃から地域に参加するサイクルができている。若い層をつなぐことが重要だと思う。また子どもの意見を聞いていきたい。

(梅谷委員)

一歩やりたいことを後押ししていくことが大切だが、支援をするしかけを作るのは難しい。

(橋爪委員)

はじめることが得意な人と継続が得意な人もいる。一歩目作り、軌道がのったら次というやり方もある。一歩目をはじめるのは勢いやエネルギーがいる。

(石川委員)

文園カフェでは月に1回ご高齢の方を呼んで、体操やおしゃべりをしている。参加者が高齢で参加も少なくなっている。地域に賛同する方が必要。子どもたちを地域が育てていくことが難しい。

(梅谷委員)

筵内の走ろう会は、子どもの頃、地域の大人たちに助けってもらったり、地域にかわいがってもらったりした経験が、子どもたちが大人になってからも自分のふるさととして大事にしていこうという気持ちにつながると思う。

(大賀委員)

寺子屋では、ご高齢の見守りで参加された方と子どもたちと一緒に折り紙を折り、こんな交流もいいなと思った。

3. その他

(1) 各委員から

糟屋地区社会教育委員研修会の報告について

(梅谷委員)

宇美町の講演では、教育長が社会教育はまちづくりの基盤であり重要課題だと言われていた。人を育てることが豊かな地域づくりにつながる。篠栗町の事例発表では、地域の公民館も他地域が使えることにすることで、維持できており、他の地域を入れたことで得するのは自分の地域という考えでまちづくりをされていた。

(安部委員)

篠栗町の事例発表を聞き、公民館を借りるときに地元の人しか借りられないことが多いから、他の地域でも借りられることは羨ましいと思った。また、宇美町の図書館の施設も大変充実していた。

(園議長)

篠栗町の「まるもり」の代表者が転勤族で、引っ越してきたときに、区長が地域活動を後押ししてくれ、時代に合った考え方で提案していったことが素晴らしいと思った。そこから発展して「まるもり」の規模がどんどん大きくなっていった。

(石川委員)

3月8日(日) 童謡まつり(文化協会)

3月15日(日) 菜の花まつり

(2) 事務局から

連絡なし

(3) 次回開催日程

3月 24 日 (火) 18:30 ~ 会場: 103洋室

4. 閉会